

C

空気に含まれる水蒸気と温度

氏名 ()

あたたかい部屋で湯気のとつごはんを食べているとき、窓がくもっているのを見たことはありませんか。夏に冷たい飲み物を飲もうとしたとき、コップの表面に水滴がついているのを見たことはありませんか。

実は、これはみんな同じ原因で起こる現象です。窓がくもったのも、コップの表面に水滴がついたのも、服がしめったのも、空気中にふくまれている水蒸気が冷えて（水）になったためです。

空気がふくむことのできる水蒸気量は温度によって決まっています。温度が下がると、少しの水蒸気しかふくむことができません。だから、ふくまれなくなった水蒸気が水になって出てくるのです。

ある温度の空気が含むことのできる最大の水蒸気量を、「飽和水蒸気量」と言います。「飽和」というのは、おなかがいっぱいになって満足するという意味です。

たとえば下の絵の場合、コップの周りの空気は冷たい飲み物によって冷やされています。アでは、まだコップの周りに水は出てきていません。氷を入れて冷やしたイでは、うっすらと水ができてはじめています。さらに冷やしたウでは、コップの周りに水が出てきているのが分かると思います。

